

祝奉誕降御

會奏演樂音

(開公料無催主社本)

本社は皇孫殿下の御降誕を奉祝する爲め、その翌日か翌々日に午後一時より有聲座に於て奉祝演奏會を催し讀者諸君を御招待致します。

△出演者

明石恭、高木益三、高橋三郎、上野豊、野倉喜四郎、諸氏其他

△曲目

(第一部)國歌、皇孫殿下御誕生奉祝歌、メロランド、ハイフレイ

△序曲

バグダットの會長、ラタロー、スパンニツシ、ヘレナ、(第二部)ホ

△其他

特に川崎本社社長が長唄「鶴亀」をピアノの伴奏で獨唱する外余興として活動寫眞もありま

ラチ明かぬ記念事業

兩校長が躍起の勧誘

平町兒童の爲めに

是非ピアノを購入したい

兩陛下御成婚滿廿五年を永

久に記念する爲め平町では

第一第二兩小學校に各一臺

のピアノ及び兒童の修養娛

樂に備ふべき兒童文庫の設

置を計畫しピアノ二臺約三

千八百圓文庫二箇所千圓合

計約四千八百圓の豫算を以

て町内有志の寄附により計

畫着々進行中であつたが今

年も愈々十二月に押迫つた

ので會我第一原田第二兩校

長は如何にしても年内に前

記計畫を遂行すべく兩三日

來直接寄附勧誘の衝に當り

つゝある各區長を歴訪中で

あるが諸種の事情により未

だ寄附金の豫定額に達せざ

る一部に於ては區費として

不足額を補出する計畫

もあるやに結局年内には

實現の運びに至るであらう

希望者なし

平の紹介成績

平町職業紹介所で十一月に

紹介したものは求人廿名に

對し求職者再來を合はし六

十九名の多數で就職したも

のは男十四名女四名計十八

名にすぎない子守女中の求

人はあつても希望者がなく

依然拂底を告げてゐる然し

年の瀬も迫つた近頃の寒空

に職を失ひ日雇でもよいか

ら労働者の希望がめつき

り増して來たと

江名縣道竣工

石城郡江名町大字永崎より中の

作に通ずる間の堀割縣道は

今月中に竣工する見込みで

あると

農事功勞表

石城に二名

大日本農會で六日明治神宮

で行ふ全國農事功勞者の中

石城郡人では磐崎村阿部清

太郎、渡邊村安藤尾之吉の

兩氏か加へられてゐる

酔つ拂つて平署に

飛び込んだが運の盡

酌婦に狂ふ詐欺男

住所不定石城郡赤井村大字

西小川字大澤田生れ製板職

工草野四郎(三)は本年十月

二日平町字南町飲食店に

まや事井口タカ方にて十二

圓九十六錢の無錢

飲食を 爲し同八日

には石城郡平窪村坂本幸四

郎方に至り長男武義(三)を

奉公せしむると稱し前借の

名義にて十五圓を騙取した

が更に去る一日には双葉

郡新山町某呉服店より木綿

反物一反を買ひ求めた際家

人の隙を窺ひ申妻絹裏地反

物外數點を

萬引し 翌日の夜強

か酔つて平署に飛び込み

俺れは草野四郎だとの名の

りをあげた爲め宿直の松本

警部補が前記の被害者より

告訴があり四郎の行衛を捜



空瓶の利用法

洋酒や、ビールの空瓶は、

筆立、箸差、花籠の水桶な

どに利用できます。しかも

さびないで結構です。それ

平より湯本

穀檢移轉運動

穀物検査所平支所を湯本町

に移轉して欲しいと支所建

築を機とし同地方の當業者

が寄々協議をなし磐崎内郷

兩村當業者と會合移轉運動

を起してゐる

夏井消防協議 石城

郡夏井村消防組にては二日

午後三時より役場にて幹部

會を開き左記事項を協議し

たと

△火災警防に關する件、

△消防組秋季檢閱を十三

日に執行する件、△各部

に於て叩筒及び機械器具

手入に關する件△鐵骨火

の見構建設促進の件△林

野巡視に關する件

平町人事

△出生

△材木町二〇當時東京市四谷區大

番町小菅正吾氏四男裕

△南町七八 北野原文三氏三女ハマ

△古銀町三一 和泉吉吉氏三女ト

ミ子

ますからあとで切り口にや

すりをかけます。やすりの

ない時は、研石でこすつて

もよろしいです。紙よりの

巻方で好きな形に切れます

ところに趣味があります。

また空欄は湯たんぼの代用

にもなります。又種物など

を入れますと濕氣がこない

でよろしくございます。

現金を盗む

菓子卸商が

石城郡内郷村大字綴字大木

下菓子卸商岩崎福次(三)は

去月中三回に亘り同村磐城

募集 文藝其他投稿

炭礦物品販賣所帳場より現

金八圓六十錢を窃取せる事

發覺佐藤請願巡査に逮捕さ

れ平署にて取調中

野菜大下落

平町歳末相場

平町地方昨今の白菜は日に

下落し小賣は二日現在

一升最上四十三錢以下各等

は順次一錢安となりみそは

並一貫八十八錢醬油一升七

十五錢で

これ等 はまづ普通

相場を持續してゐるが野菜類

は豊作の處へ炭礦方面のい

はゆる上得意筋の需要者が

減少した影響をうけ安かつ

た昨年の相場よりもまた

院の極上大が一個四五錢里

自動車式に

湯本小名間を

石城郡湯本町から同郡小名

濱港に至る軌道は從來馬車

を使用してゐたが非常に時

間を要するため同軌道を利

用して同港に至る者なく且

つ物資の運搬等も閑散であ

つたが今回經營者磐城炭礦

に於ても湯本町と小名濱港

の利用交通の便等を考慮し

た上最も時間を要せず同港

に至ることのため從來の馬

車軌道を廢止しこれにかふ

れるに自動車式の機械によ

つて運轉することになつた

がこれによれば湯本小名濱

間は僅に三十分を以て片道

をゆくことが出来るといふ

ので附近民は非常に喜んで

ゐる

新コン出廻り 石城

郡植田町の蒟蒻新粉は漸く

あると

外苑日本青年會館で表彰式

を行ふ全國農事功勞者の中

石城郡人では磐崎村阿部清

太郎、渡邊村安藤尾之吉の

兩氏か加へられてゐる

あると

住所不定石城郡赤井村大字

西小川字大澤田生れ製板職

工草野四郎(三)は本年十月

二日平町字南町飲食店に

まや事井口タカ方にて十二

圓九十六錢の無錢

飲食を 爲し同八日

には石城郡平窪村坂本幸四

郎方に至り長男武義(三)を

奉公せしむると稱し前借の

名義にて十五圓を騙取した

が更に去る一日には双葉

郡新山町某呉服店より木綿

反物一反を買ひ求めた際家

人の隙を窺ひ申妻絹裏地反

物外數點を

萬引し 翌日の夜強

か酔つて平署に飛び込み

俺れは草野四郎だとの名の

りをあげた爲め宿直の松本

警部補が前記の被害者より

告訴があり四郎の行衛を捜

にはまづ、丈夫な紙(キガ

ミ)で、カシジンヨリをつ

くりアルコルに充分ひた

して瓶の口もと、切らうと

思ふ場所)にまきつけ、こ

よりの先に火をつけます。

火がすつかりこよりに廻つ

た時冷たい水の中に投げ込

みますと、巻いたところが

かつきりに見事に瓶がきれ

に出廻り初め北海道及東北名

古屋方面に出荷があつたが

一駄三百圓にて荒粉取引は

一駄百七十圓生球は一貫八

六十錢の取引にて農繁終了

と共に十四五日頃には多數

の出荷があらうと

林野保護

組合長會議

平署樓上にて

平署管内林野保護組合にて

は五日午後一時より同署樓

上に於て組合長會を開き樫

村署長の訓示あつて左記事

項を協議する由

(指示)防火線設備に關す

る件、狩獵者に注意の件

林野火入に關する件、林

野保護組合獎勵規程廢止

の件(諮問)平警察署管内

林野保護組合聯合會組織

に關する件、(協議)大正

十五年度平警察署管内林

野保護組合聯合會豫算に

關する件

募集 文藝其他投稿

炭礦物品販賣所帳場より現

金八圓六十錢を窃取せる事

發覺佐藤請願巡査に逮捕さ

れ平署にて取調中